



「ミステリを知るためには？ーレファレンスブックを手引きに！」

Q、ミステリの知識はどうやって蓄積したのですか？

大村： ミステリ小説をたくさん読んできました。でも、ミステリ小説のなかには「スリラー小説」や「ハードボイルド小説」、「サスペンス小説」などジャンルがあります。私は「本格ミステリ小説」が好きなので、そのジャンルの本をたくさん読むためにレファレンスブック（参考図書とも呼ばれ、資料や事柄を調べるための本）を手引きにして、取り上げられている本を読んでいきました。昔は今のようインターネットがありませんでしたから、自分に合った本を知るにはレファレンスブックのように活字になったものを頼るしかありませんでした。

Q、影響を受けたレファレンスブックを教えてください。

大村： 『世界の名探偵 50 人』（藤原幸太郎著 KKベストセラーズ）という本に小学生の時に会いました。名探偵がたくさんいることに驚いたり、世界の名作を知ったりしました。クイズ的な部分があったりして楽しく読めました。これにより、ミステリ小説の奥行きを感じました。中学・高校にかけては、『世界の推理小説・総解説』（自由国民社）でも、世界にはたくさんの作家や作品があるという広さを知りました。

しかし、これらの本は近々の作品は網羅していませんでした。1986 年に『文藝春秋』がアンケートを取り国内外のミステリ小説をそれぞれベスト 100 として載せました。後の『東西ミステリーベスト 100』（★007 文春文庫）です。

（注 <http://www.2u.biglobe.ne.jp/~mystery/mystery/best100.html> で見られます）それで、今まで欠けていた現代の作品を埋めるべくたくさん読みました。私が知らなかった泡坂妻夫や連城三紀彦・笠井潔など、日本にもこんなすごい人がいたのかと思いました。アンケートに答えたグループに「SRの会」とあり、グループの存在を知ったりもしました。こんな会があるのかとね。

Q、先生の所属なさっている「SRの会」との、初めての出会いだったのですか？

大村： そうです。初めて意識しました。

次に参考にしたのは国内については「このミス」ランキングの作品です。1988 年から始まった『このミステリーがすごい！』は、ミステリ好きの一般の人が自由に投票した結果のランキングです。それまでは江戸川乱歩が基準で、乱歩がつまらないといったら駄作とされていました。しかし、最近では「このミス」の権威が大きくなりすぎてきているのが残念です。

外国作品については、森英俊さんがお書きになった『世界ミステリ作家事典 本格派篇』で、埋もれていた今まで聞いたこともないような黄金期の本格ミステリがまだまだあることを知りました。その流れで 18 年ほど前に『世界探偵小説全集』（国書刊行会）が知られざる国外本格作品を次々と刊行してくれ、ちょっとしたブームになりました。でもここ 2・3 年はこの手の作品の発行がめっきり減ってしまい残念です。まだまだ本格ミステリで知られざる傑作があると思うのですが。

Q、本格ミステリの案内人として、先生の尊敬している方はどなたですか？

大村： 人生は短いので、何でも手にとって読んでいくという余裕はないですね。私は遅読なので、ある程度守備範囲の本を読みたいと思うわけです。そのためには、どの時代の作家か、どの国の作家かなのかなど調べたり人に聞いたりするのです。話は戻りますが、森英俊さんや SR の会の会員には、信頼も尊敬もしています。

では今回はここまでにします。

次回は「SRの会」について お話をお伺いします。

